**第４講「法然上人の生涯～万人が救われる教えを求めて～」**

**慈悲つむぎセミナー**

**宗祖法然上人のご生涯をたどりながら、上人がお示しになったお念仏のみ教えとはどのようなものなのか、また、み教えはどのように弘まっていったのかを、総本山知恩院所蔵 国宝『法然上人行状絵図』、通称『四十八巻伝』をご覧頂きながら、９章に分けて読み解いていきます。**

**１．誕生、父母との別れ**



法然上人のご誕生、そして、九歳の時に夜討ちによって

父と死別をします。その後、叔父である勧覚の元で仏教・

勉学の手ほどきを受けます。上人１５歳の時、父の遺言

通り悟りの道を求め、母とも別れ比叡山を目指すのです。

**２．比叡山へ、求道の日々**

比叡山に上がった上人は、源光、肥後阿闍梨皇円、叡空と

それぞれの師匠の元で仏道修行に励まれます。その後、

醍醐寺や興福寺などの名僧、学匠を訪ね、様々な教えを受

けますが、上人が求める教えに出会うことはなく、深い絶

法然上人ゆかりの地

望の淵にたたずむことになります。

**３．浄土宗を開く**

比叡山黒谷青龍寺の報恩蔵にひとり籠り、仏教の経典や注釈書を読みふけっていた時、中国唐の善導大師の書物に目が留まります。そして、上人が求める教え、お念仏の教えに出会うのです。浄土宗の開宗です。

**４．『選択集』の撰述**

法然上人の示されたお念仏のみ教えの理論を、１６章にわたり体系化し撰述された著書『選択本願念仏集』（『選択集』）をご紹介します。この書は、上人に深く帰依し、最大の外護者

である関白九条兼実公のたっての願いにより、撰述されました。

**５．法難と四国配流**

上人のお念仏のみ教えは、多くの人々に弘まっていきました。そのことを快く思わない、比叡山や興福寺の僧侶から、度々念仏の禁止の動きがおきていました。そんな矢先、後鳥羽上皇の女房が法然上人の弟子の法要に参加し出家してしまうという事件がおきます。その結果と上人は四国へ流罪となってしまいます。

**６．ご往生**

上人の流罪が許され、ようやく京に戻られたのは７９歳の時でした。年が変わり８０歳の御年、多くの弟子たちが唱えるお念仏の声の中、法然上人は静かにご往生なされました。

**７．おおらかな教え**

法然上人のみ教えは、疑いつつも念仏を称えれば往生がかなう、眠ければ起きてから念仏を称えればよい、お酒はこの世の習いであるなど、人間の弱さを包み込む、実におおらかなおさとしです。

**８．万人救済のために**

法然上人のお念仏の教えに導かれた人々は、様々な身分や立場の人々におよんでいます。御所におられるような人々や公家や武士、あるいは陰陽師やもとは盗賊であった者など、様々な身分や立場の人々でした。なぜなら、上人の説くお念仏のみ教えは、当時は往生が叶わないとされていた人々も含めて、誰も彼も万人が救われる教えだからです。

**９．法然上人御遺訓「一枚起請文」**

１８年間にわたり、上人の身のまわりのお世話をした、勢観房源智上人に、法然上人が形見として残した、最期のおさとし「一枚起請文」をご紹介します。

**に、もろもろのの、しさるるのにもあらず。またをして、のこころをりてすにもあらず。ただのためには、として、うたがいなくするぞといりてすにはのわず。ただしとすことのうは、してにてするぞとううちにこもりうなり。このにふかきをぜば、のあわれみにはづれ、にもれうべし。をぜんは、たといのをよくよくすとも、ののになして、ののともがらにうして、のふるまいをせずしてただにすべし。**

**のためにをもってす。**

**のこのにせり。 が、このにくをぜず、のをふせがんがためにをしるしんぬ。**

　慈悲つむぎセミナー　1～５講を動画で視聴できます。

　１講　浄土宗的な生き方～慈悲の想いをつむぐ～

　 　２講　知っておきたい基礎知識～総大本山と仏事のいろは～

　 　３講　阿弥陀仏の極楽浄土を体感する～眼・耳・鼻・舌・身・意で巡る～

　 　４講　法然上人の生涯～万人が救われる教えを求めて～

　 　５講　日々のお勤め　～声に出してとなえてみよう～

浄土宗総合研究所ホームページ

または右のQRコードより

